

被服構成実習のカリキュラム編成について

—学習者の期待を中心に その2—

福 山 和 子

- はじめに
- 学習者の被服構成実習における目標
- 学習者の具体的目標と構成指導要素
- 実習目標設定のシステム
- 目標設定の実際
- おわりに

はじめに

1) 前報で被服構成実習に対する学習者の期待について報告した。学習の場において、学習者・教師にとって常に関心の中心は教育目標を達成し、次のステップの目標を設定し、それに向って進まうとする学習者の意欲の問題である。このことは被服構成実習作業においてもいえる。学習者の学習意欲いかに実習目標達成の成果いかに直接関係することは疑問の余地がない。しかし、学習者個人の能力がいくらあっても、適切でない学習目標を自ら補うことは困難であり、また目標が適切であっても達成できない場合がある。学習者が構成の技術を効果的に学ぶかどうかは学習者の知識と技能

力に左右され、また教師の適切な教科目標の設定にもよる。更に、実習に対する学習者の意欲的な行動力に能力が伴う場合にもっともよい学習効果が生まれることはいうまでもない。そこで学習者の学習目標達成にかかわる要素をあげると、1) 学習者の目標、2) 知識・技術経験、3) 適性、の三つが関係している。そこで前報告をもとに学習者の側からの目標設定について考察をすすめる。

学習者の構成実習における目標

前報告において、学習者が被服構成実習に対

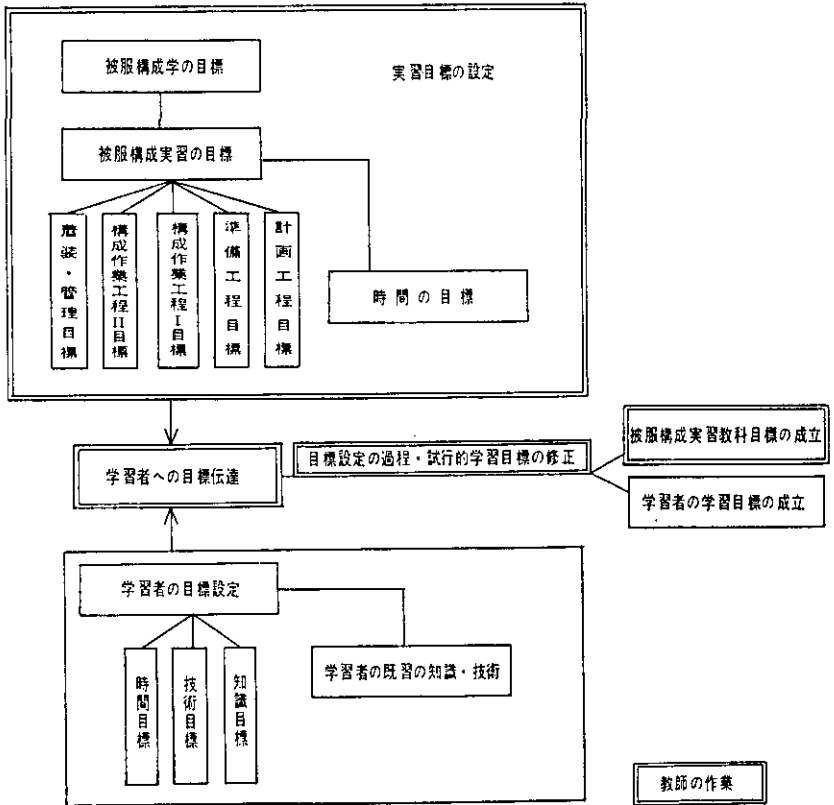


図1 実習目標設定の基本的システム I

していただいている目標の概容を知り得た、本学の場合の被服専門学科の学習に対する学生の期待によると、学習者は被服構成実習の最終目標すなわち、卒業後実習系技術を職業とする程度の目標設定をする学習者は5~6%、関係職業とするもの30%で学習者の半分以上は技術目標の「専門化」を要求していない、このことは、専門技術実習での習得目標「家庭の主婦として日常着類の縫製に不自由しない程度」の目標設定しているもの80%いることからわかる。また、被服専門学科の学習目標を「合理的衣生活ができる」ことにおいているこの事実と期待する実習目標を合わせ考えると、構成実習目標は高度の縫製技術の学習を期待するのではなく、縫製技術を通して合理的衣生活を学ぶ一基本方法として学習しようとし、更に、合理的に縫製する技術を通して衣生活を合理的に管理する方法を学習することにおいている。それでは「日常着類の縫製に不自由しない程度」とは、どの程度の目標なのか問題になる。そこで構成実習で構成を期待する服種を参考にすると具体的にスラックス、ワンピースを望むもの50%、コート類、スカート、ジャケット等を希望するものが30%であった。このように具体化された学習者の構成実習に対する目標程度をいかに学校としての教育目標すなわち被服構成学の目標と関係づけ修正し、実習目標をいかに計画化し組み立てるかが課題となってくる。

実習の目標を設定することは「何を」「何のために」「どのような方法で」「どの程度」実施展開するかを明確にすることである、その目標の設定過程は次の過程を経るものとする。

- 1) 教師によって構成学によって試行的に設定された技術習得目標を学習者に伝達する。
- 2) 学習者が達成したいと望む個人的な目標を試みに設定させる。
- 3) 1) 2) を目標設定システム (図1) の中で消化して、目標を決定する。

このプロセスは日常よく実施されていることであり、1), 3) の過程が目標設定に大きく左右してくることは経験することである。

学習者の具体的目標と構成指導要素

実習内容は構成技術要素を単純要素作業から次第に応用・複合要素作業段階に発展させなければならない。(図2参照)

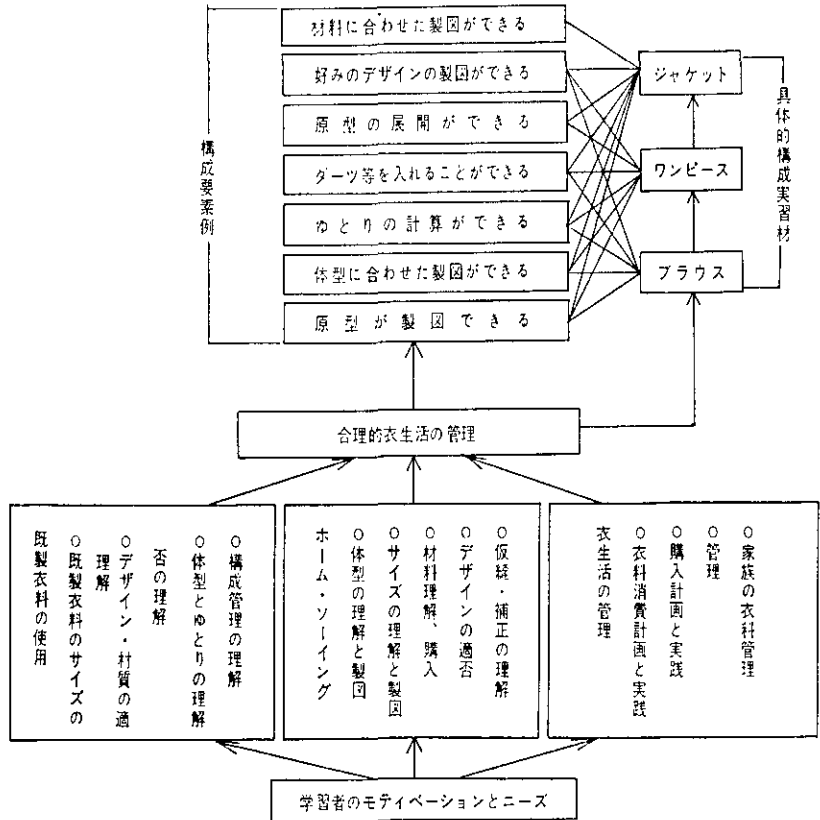


図2 学習者の具体的目標と構成指導要素の関係

具体的に構成作品の構成段階における構成技術要素を前報の図より要素数を記すと、

ブラウス 39 要素 (計画段階 3 点, 製図段階 10 点, 裁断段階 4 点, 補正段階 5 点, 縫製段階 17 点)

スカート 35 要素 (計画段階 4 点, 製図段階 6 点, 裁断段階 4 点, 補正段階 5 点, 縫製段階 16 点)

ワンピース 50 要素 (計画段階 5 点, 製図段階 14 点, 裁断段階 4 点, 補正段階 6 点, 縫製段階 21 点)

ストラックス 34 要素 (計画段階 2 点, 製図段階 7 点, 裁断段階 4 点, 補正段階 5 点, 縫製段階 16 点)

ジャケット 51 要素 (計画段階 5 点, 製図段階 14 点, 裁断段階 4 点, 補正段階 7 点, 縫製段階 31 点)

コート 63 要素 (計画段階 5 点, 製図段階 15 点, 裁断段階 4 点, 補正段階 7 点, 縫製段階 32 点)

になる。これはあくまでも基本構成を中心とした要素数である。中学校の技術・家庭科、高校の家庭一般においては、スカート、ブラウス、あるいはワンピース等、指導要素点 20~30 点の基礎構成を学習して進学しているとすれば、大学の専門課程における学習材はワンピース、ジャケット、コート等の応用、複合構成要素数の多いものを選択されてくると考えられる。

実習目標設定のシステム

学習者の学習目標が実習の目標を支持し、また、実習の目標が学習者の目標と関係づけられる具体的相互作用は実習材と学習時間数の二面に影響される。実習材が指導要素数が多くなると学習所要時間数も増える。この時、学習者のモチベーション及び学習のニーズ性とどうかかわりあわせるかが具体的な目標設定の課題となる。そこで構成実習目標設定のシステムが必要になる。

構成実習目標設定システムの考え方は実習における実習体系はすべて継続的であって、各時

間毎に分離独立した学習材を扱えないところから出発する。ある一定の時間数一つ学習材を実習材として手掛ける。そこで構成実習の場合は年間長期目標システムと一つの学習材についての目標システムと時間限システムが要求される。すなわち他の教科の目標システムと異なる点は、長期目標設定にそって、学習材による目標システムが必要なことである。この目標が、長期、時間システムにいかに関係づけるかが学習効果に大きく影響される。すなわち実習目標システムには多くのサブシステムおよびサブ・サブシステムをもっている。また、反対により大きいシステムの部分の実習となる。たとえば一つの実習材による実習課程の目標システムを考えた時、それは多くのサブシステムをもっているということである。すなわち、デザイン過程、製図過程、補正過程、縫合接合過程などのサブシステムを有する。また、一つの実習過程サブシステムは他の実習過程システムと関係し、更に相互にサブ・サブシステムと作用しあっている。この相互システムの設定が学習者のニーズとどこで作用させるかが問題になる。

学習者は計画段階、製図段階、裁断段階、補正段階、縫製段階のおののにおに心と目標をもっている。しかし、いつも学習の最終目標は「合理的に衣生活ができる」にある。故に教育する側の目標がここで設定されてこなければならぬ。

被服構成学の目標は「着ごちよい衣服の構成」の技術と理論を实践、研究することにあるが、それに加えて、教育方針とのかかわりが目標に加わる。被服専門課程としての教育目標は何なのか。技術教育が目標なのか。衣生活管理の能力開発なのか。衣料の消費管理教育にあるのかによって、被服構成実習のカリキュラム内容における実習配分、すなわち編成が異なってくるのである。既製衣料の発達した現在、構成技術指導教育にウェイトがおかれた場合、衣生活の現実と遊離し、被服学教育のあるべき目標からずれてくると考える。やはり、現実の衣料消費生活の実態の上にたって「衣生活の合理的

管理ができる能力の開発」におくべきである。この点では学習者の学習目標と一致するが、いかに教育を展開するか、目標におけるカリキュラムシステム、サブシステムの段階で学習者と教師の間で、実習内容と実習材との間で、教育のニーズと学習者のモチベーションが、いかに一致させるかが学習効果をあげる鍵となる。

たとえば、ある構成素材を用いて曲面接合を実習しようとする場合、実習目標を曲面接合を機械縫製による接合技術を通じて曲面構成を理解させようと設定した場合、学習者は曲面縫合によってより美しい衣服構成成品を以前に経験し、観、知ってていて、学習者が縫製できるようになりたいと期待していた時、教師の十分な目標伝達と実習展開によって目標は達せられ、更にサブ・サブシステムへの展開、あるいは複雑曲面の構成のモチベーションとなるのである。しかし、学習者が過去において、曲面構成における難かしい経験あるいは失敗経験がある場合、十分な目標伝達にもかかわらず、学習者のモチベーションとの関係が稀薄になり十分な学習効果が得られない場合がある。また、縫製作業が合理的技術によって時間的短縮が期待される時、目標達成はより可能となる。しかし、次のような場合に学習者の個人的な目的と指導目標とか時間の目標で全くづれてくることがある。実習材を構成し着用する学習プログラムが一定期間先の目標を達成しようとしている時、学習者が各学習時限の実習それ身体が全目標であると錯覚し、これによって、その実習のある時間先における目標達成に対する目標をみうしなう場合がある。

以上、実習目標における相互作用の実際を中心に学習者の目標と教育する側の目標についてその接点を求めてきた。その接点を効果的に活用するかによって学習効果があがることはいうまでもない。これを可能にするためには、教科の学習目標が学習者の目標に時間的に先行していなければならない。この基本にたつて教師はつぎの作業をすすめる。

1. 被服構成学の基本目標を明確にする。学

習者に何を学ぶことを目標とし、期待するのか、技術習得か、合理的衣生活管理能力の開発か、衣料消費管理能力、教師になるための指導的構成学を習得させるか。

2. 1の基本目標にそつて補助目標、実習目標、時限目標等に細分化し、設定する。

3. これらの各目標と学習者に伝達する、伝達の方法によって学習者のモチベーションの刺激となるよう伝達されなければならない。

4. 教師は実習の展開状況を観察することによって、学習者個人の目標（デザイン面、構成面等）を援助する。この時点で、学習者の学習ニーズのばらつきや、個人のモチベーションのちがいを観察し、個人的モチベーションに近づける伝達を試みる。

5. 教師の構成学にそつた試行的な学習目標新しい技術の導入、機械・器具の使用、新しい教場展開等にかかわる目標に対しては若干の修正をし、目標・時間を学習者の状況の中でバランスを取る。

6. 初期の基本目標を達成するために、実習目標と学習者の目標のバランスを取りながら最終的指導計画を設定する。

以上1～6の目標設定の手続きは、構成学の基本目標にもとづいて、それを条件として学習者に目標設定による学習参加を期待したものである。現在、教育の現場において、これらの手続きが、より厳しく実施されることもあれば、簡略化される場合もある。ここで教師側に要求されることは、目標伝達の段階で学習者が積極的に学習展開に適応するよう伝達なされ、さらに、基本目標と時限目標を関係づけて理解させ、学習者を実習学習に方向づけさせる必要がある。その上で、その学習成果について学習者と教師の間で実習の場において適切な目標にそつての評価とフィードバックの作業をしていかなければならない。

目標設定の実際

被服構成学の基本目標を「合理的衣生活の管理能力の開発」におくと、例えば、技術学習を通

して能力を開発をすすめると決定された場合、「合理的衣生活管理能力」とは何なのかが問題となる。既製衣料の購入消費管理の能力か、家族の衣服製作にあるのか、美しく着ることなのか、の検討である。現在の既製衣料の発達した社会ですべて自分で製作することは不要になった。しかし、一方個性的衣服面の必要もさげられ、それをおしすすめるかの互くホーム・ソーイングも重要視されている。既製衣料の消費とホーム・ソーイングによる衣料のバランスをどうみるかによって具体的目標が導き出されてくる。すなわち、ホーム・ソーイングの構成技術を通じて既製衣料・家族衣料の消費の管理を指導しながら「合理的衣生活管理能力」を学習させようと目標が設定される。その「合理的衣生活管理能力」の開発をいかなる方法によっていかに学習するか、1) 講義による学習か、2) 技術実習によるか、3) 実験演習によるか、の学習方法が具体的に決定されてこなければならぬ。技術を通じて学習する場合、実習形態がより効果的学習方法であると決定された場合、具体的実習目標と内容が検討されてこなければならない。検討の柱は、

1. 基本目標を達成する実習材は何か？
2. 学習者の過去の学習経験は？
3. 学校差による経験のバラツキはどのくらいか？
4. 学習者のニーズはどうか？
5. 実習材と必要時間数の関係はどうか？
6. 評価はどうするか？

等であるが、特に2, 3, 4, の学習者に関しての十分な調査が要求される。その結果1年間の実習目標実習内容の目標が設定される。実習における学習の基本的要素として、学習者の学習経験のバラツキをなくすることから展開されなければならない。その為には実習材の決定において基本的構成要素の多い材を選出する。例えばすべての構成段階において基本的なものを含んでおり、次の実習材に応用できえる要素を多く含んでいるものでなければならない。一般に多く選出されてくるのが、ブラウス、スカー

ト、ワンピース等である。これらの構成材と学習の目標からすると、スカートは学校差なくすべての学習者が経験して進学している。ワンピースはホーム・ソーイングするよりは既製衣料にたよる傾向がある。ブラウスは既製衣料も使用し、家庭でも製作し、更に基本的構成要素を多く含んでいる。更に学習者のニーズとも一致する可能性がある。

これらの検討から、ある一つの実習材が決定され、基本目標と時限目標が学習者に伝達される。この時学習者の学習のニーズ性とモチベーションをいかにくみあげるかが次のステップになる。すなわち、基本目標にそった基本内容をどの程度まで応用展開を可能にするかが次に検討されなければ、学習者の参加がほとんどなくなる。すなわち、デザイン、材料、構成の応用範囲を学習者に伝達・観察し、実習展開の途中で、どの程度修正可能にするかの限界の決定である。最後に各時限の実習目標、すなわち、既製衣料とのかかわり、構成実習材と体形・美・流行・構成・再生応用などについて設定する。

これらの目標システムのあらましを挙げたが、これらを年間目標、あるいは修業年限目標にそって十分に検討されてこなければならないのである。

実習展開においては教師のおおくは授業管理及び技術管理に指導の中心がおかれ、学習者の計画参加まで指導するには困難である。それは、学習者の過去の学習経験（小・中・高校の教育過程）においてあまりにも学習者に差があるからであり、困難であった。しかし、学習効果を上げるためにはその差を的確に把握し、その上に教育目標計画をたて、指導目標をたて実施していかなければならない。であるから、短大・大学における実習指導の第一歩は学習者の学習経験のばらつきを、基本目標にそっていくことからはじめ、前述した、目標達成に学習者をひきこむ方法が今後の被服構成学教育の課題となろう。また、学習者個人の目標は実習展開の場において、実習目標と部分的にしか関係もたないものであると考え、実習の目標と学習者

の目標を実習展開の場において、調和させることのできる授業システムを開発することが考えられてこなければならない。

おわりに

被服構成学実習に対する学生の期待及びそれにともなる目標設定の方法について、前報より考察をすすめてきた。構成実習の目標設定及びカリキュラム編成時において充分なる検討が要求される事柄をまとめると、第1に過去の経験的目標設定から、科学的システムによる目標設定に脱皮しなければならない。家政学自身をいかに目標設定するか問題があるが、いま、実践生活科学としてとらえた場合、科学的合理的衣生活の基本と学習させるためには過去の実習の目的では、現在の科学的文化的合理的な時代の生活に密着しない。机上の空論あるいは実習になるおそれが充分にあるからである。教育の目標の本質は変えることはないが、実習展開における目標、カリキュラムは学習者の要望と社会的要求に適応できるものでなければならないからである。

第2には、被服構成学実習に関する研究資料を収集、活用することである。実習展開は過去の経験による場合が多く導入されてくる。この時、更に、他の実習展開の場における実習状況データを活用することによって、より効果的カリキュラム作成ができるものとする。故に常に関係学会、研究機関からの資料を集取しておくことである。

第3として、社会的衣生活の展開状況の資料を常に観察し、研究しておかなければならない。更にそれが学生の学習に対する期待として表現されてくる場合が多いので、常に衣生活の簡便化、既製衣料の消費状況について調査することが要求される。

第4として、構成実習の「標準」を検討しておかなければならない。学習者の要求度を知ると同時に基本目標にそって実習の標準を設定しておかなければ、学習者の実習による能力・学習経験のばらつきを多くし、満足できる実習展

開を期待することはできなくなる。そこで標準化したパターンを柱に実習カリキュラムを組み立てる。

更に第5として、新素材の出現による構成技術の合理化を教師は常に開発研究しておかなければならない。

しかし、構成実習をその目標にそって的確に学習者の能力を開発することは容易な作業ではない。いままでの構成学実習が過去の指導経験によっていることをしばしば批判されることは過去の学習カリキュラムからの脱皮を積極的におしすすめられなかったことと、更に現在のカリキュラムを混乱させている試行的指導計画とが目標としてすりかえられ混同していることのためである。よりのぞましい実習カリキュラムをシステム化し、試行することは研究課題としたい。しかし、それを即構成実習の目標・計画とおきかえるには問題がある。多くの実習実験を経、更に数多くのカリキュラム案に接し、また、多種多様な学習者の学習経験と能力を網羅的に集録し、それに対する指導法を研究した上で、実習展開に応用できるようにしていかなければならない。それらの基礎研究の上に、はじめて、のぞましい被服構成実習の目標設定及び指導計画のシステム化されると考えるのである。

参 考 資 料

北星学園女子短期大学紀要

14号 被服構成学の生成 福山 和子

15号 被服構成実習における縫製技術指導計画

福山 和子

「技術教育の原理と方法」清原 道寿・国土社

「技術家庭科の指導計画」

産業教育研究連盟編・国土社

「技術家庭科の主体的学習」樋口 博章・明治図書

「現代教育心理学」大西 佐一他・創元社

「学習活動の自動化」大内 茂雄・明治図書

「創造性の教育」I~III

恩田 彰責任編集・明治図書

「学習指導の構造的な研究」

日本家庭科教育学会誌 第13号

内藤 道子

1), 2), 3), 4) 北星学園女子短期大学紀要 16号

「被服構成実習のカリキュラム編成について」福山